

# 生物多様性保全調査（外来生物駆除手法等検討調査）（R5～7）

## 調査の概要

アメリカザリガニは、その旺盛な繁殖力により、ため池等農業水利施設及び生態系に対し大きな被害を及ぼしており、その対策が必要である。これを踏まえ、農業用ため池における生物生息状況調査、水質等の環境情報調査、環境DNA分析及びアメリカザリガニの駆除等を実施し、アメリカザリガニの適切な駆除手法及び駆除による環境再生に係る評価手法等を検討する。

- （背景）◆ アメリカザリガニは、在来の生物が絶滅するなど生態系等に大きな被害をもたらしており、令和4年5月「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の一部を改正する法律」により、すでに国内で多く飼育されているアメリカザリガニに対応するための規定が整備。
- ◆ この規定を踏まえ、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行令の一部を改正する政令」により、令和5年6月からアメリカザリガニを条件付特定外来生物に指定。
  - ◆ 農業水利施設では、巣穴を掘ることによる水路・水田畦畔の漏水やため池堤体の法面崩れなどの被害、ため池等の生態系や植生の消失による水質悪化などがあり、早急かつ効果的な対策が必要であるが、農業用ため池等における適切なアメリカザリガニの駆除手法、駆除後の環境再生に係る評価手法等を示したものはない。

## 魚介類等の生物生息状況調査・環境情報調査



タモ網



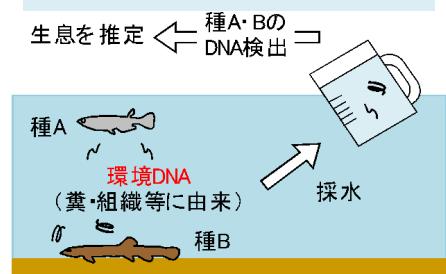
投網



目視(植物)

採捕調査（タモ網・サデ網、投網等）によりため池内の魚介類等の生息・生育状況を把握、水質調査等により環境情報を把握

## 環境DNA分析



（出典：農研機構農村工学研究部門  
水域環境ユニットHP）

アメリカザリガニ由来のDNA濃度を把握

## アメリカザリガニ駆除作業



任意採集



トラップ採集

任意採集（タモ網・サデ網）とトラップ採集（カゴ網等）を組み合わせて、駆除を実施

生物生息状況調査、環境情報調査、環境DNA分析をアメリカザリガニの駆除前後で実施

適切な駆除手法や駆除による環境再生に係る評価手法等を検討

## 調査の内容、進め方

### ＜地方農政局段階＞

全国の地方局が農業用ため池等の調査地区を設定し、下記を実施する。

- ・採捕による魚介類等生息状況の把握、水質調査等によるため池の環境情報の把握、環境DNAによるアメリカザリガニ由来のDNA濃度の把握、アメリカザリガニの駆除作業の実施
- ・駆除作業の結果及び環境DNA分析結果等からアメリカザリガニの適切な駆除手法を考察
- ・採捕結果及び環境情報調査結果等からアメリカザリガニ駆除による環境再生に係る評価手法を考察

調査・検討結果の報告



実施、検討内容の指導・助言

### ＜本省段階＞

「有識者意見聴取会」を設置し、

- ・全国の調査地区の結果を総合的に整理し、農業用ため池等におけるアメリカザリガニの駆除手法、駆除後の環境再生に係る評価方法等について検討、とりまとめ、「農業用ため池等におけるアメリカザリガニの駆除対策等に係る技術資料（仮称）」を作成

調査期間は、令和5年度～7年度（3カ年）を予定

### 九州農政局における調査概要（令和7年度）

福岡県内の農業用ため池において、

- 魚介類の採捕調査、水生植物の目視調査、水質等の環境情報調査
- アメリカザリガニの駆除手法等検討のための採捕調査
- アメリカザリガニの効果的かつ効率的な駆除手法の考察
- アメリカザリガニ駆除後の環境再生に係る評価手法等の考察

## 調査成果の活用

- 農業水利施設及び生態系に被害を及ぼす外来生物の駆除手法、施設改修・更新の際の対策手法等を体系的に整理、技術資料を作成し、外来生物駆除に取り組む施設管理者等への支援を行う。